

機能性表示食品と特定保健用食品の違い

	機能性表示食品	トクホ (特定保健用食品)
共通点	健康に良い効果の表示 国に対する手続き	表示できる 手続きが必要
違い	科学的根拠の公開 国による審査	公開されている 審査なし(届出のみ) 公開の義務はない 審査あり

機能性表示食品は、事業者の責任において、表示する仕組み。トクホは国の審査が必要であるため、商品数が少なかったが、機能性表示食品は、国の審査が不要であるため、スピーディに開発でき、トクホより幅広い効能の表示ができる。

機能性表示食品



兼貞物産が発売した「すぐもどる椎茸プラス」
令和3年3月に届出が消費者庁に受理！同年9月より発売。
1日に商品を10g 食べれば、血圧上昇抑制効果が期待できる。

椎茸は、そもそも体にいいイメージでしたがそれ以上の効能があるということでしょうか。
実は椎茸はヘルシーなイメージがありますが、体にいい効果(機能性)があると科学的には明らかにされていないんです。
えっ！椎茸を食べたら健康になるぐらいに思っていました！商品開発の経緯や苦労された点を教えてください。
元々、会社内で機能性表示食品開発に取り組まれる中で、当所の分析装置を利用した際、椎茸のもどし汁にGABAが含まれていることを確認され、本格的に商品開発の打診がありました。
令和元年5月から共同開発を開始し、添加物を全く使わずに、元々の乾燥椎茸には、わずかにしか含まれないGABAを10倍以上に増やす技術の開発に成功しました。難しかったのは、成分量にばらつき

きが多い天然の乾燥椎茸に、必要な量のGABAを含ませることでした。
苦労しましたが、椎茸に「機能性」を持たせたことは、椎茸業界ではなかなかインパクトのある出来事だったようです！
特定保健用食品や機能性表示食品という看板は、生産者にとって付加価値になるのでしょうか。
椎茸の例でいえば、国内の椎茸生産者・生産量は減少の一途を辿っています。これからの椎茸市場や食文化を守るには、生産者・生産量の維持が必要ですが、そのためには生産意欲が高まる市場になることが大事です。
個人生産者が付加価値をつけることは難しい場合が多いので、乾燥椎茸取扱量日本一の兼貞物産さんが、需要拡大にチャレンジしたことは、生産者の皆さんにとって意義深い取組みだと思います。



生物食品研究所は、百年公園や久留米ゆめタウンに近い210号線沿いにある施設です。みなさん一度は見たことのある建物ではないでしょうか。県内の食品・バイオに関する技術支援をわずか20人弱の研究者のみなさんで行っています！

【インタビュー後記】
個別企業へのお手伝いでは、技術力が向上して手助けが必要なくなり経営状態に好影響が現れた時に喜びを感じるとお話ししていた川口チーム長。そのご活動は、企業だけでなく市場や食文化を守ることにも繋がっているんだと知りました。

今取り組まれている研究があれば教えてください。
SDGs(※)の取組みの中でも、食糧の安定確保が目標となっており、県内企業の方々も様々な取り組みを行われています。
そのため、例えば大豆から肉のような食品を作る代替食品の研究を行っています。また、食品の長期保管に繋がる冷凍・フリーズドライ・レトルト加工だけでなく、今まで廃棄していた食品製造の際に出る副産物を使えないかというご相談も増えており、そのための技術開発・技術支援も行っています。
さらにはコロナの影響もあり、「賞味期限を延ばしたい」という相談も増えました。こういったご要望には衛生指導も含めた技術支援をしています。

最後に、久留米市のお好きなお話は。
久留米に来て約10年ですが、食べ物や美味しいですね。コロナ前は、食べ歩きもしていました。まちゼミにも参加していました。科学館などの学びの場が多いところもいいですね。
今後の支援のあり方をどうお考えですか。
私たちは、技術支援を通じて、企業の技術力・収益力向上、そして企業の発展に貢献することを使命としています。
一方で、AIなどを使うことで企業での働き方も変わってきており、私たち自身も技術的なお悩みに応え続けるため成長・変化し続けなければなりません。
そのため、最先端の技術を取り入れながら、新商品開発や生産性向上等に貢献できるよう業務を行っています。
私自身、自分の色々な経歴を活かすことができる今の仕事にとてもやりがいを感じています。

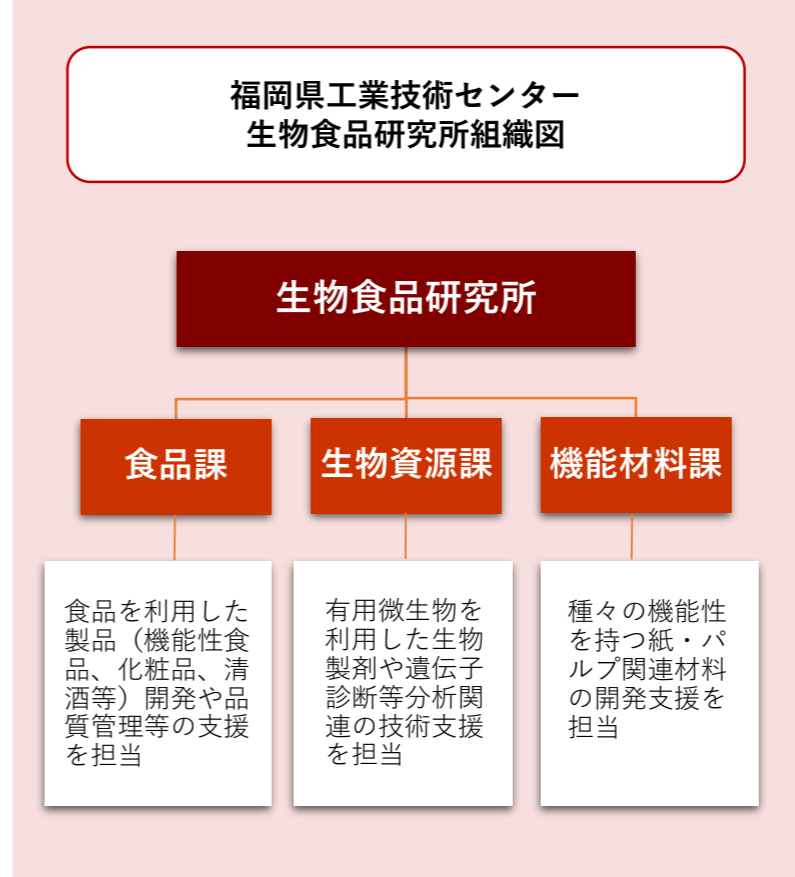


福岡県工業技術センター
生物食品研究所
食品課・ふくおか食品開発支援センター
食品開発支援チーム長

川口 友彰
KAWAGUCHI Tomoaki

経歴
長岡技術科学大学大学院工学研究科博士後期課程修了
H19~独立行政法人理化学研究所、
H20~キューサイ株式会社、
H24.4月より生物食品研究所に着任

技術支援を通じ、企業の収益向上・発展を目指す



生物食品研究所はどういったところでしようか。
県内の食品・バイオテクノロジー関連中小企業の技術支援を行う福岡県立の研究開発機関です。企業の「商品開発したい」「品質管理技術を高めたい」などのご要望に対して、技術相談や受託研究を始め、企業が試験や測定に利用するため当所の機器の開放を行っています。

携わった技術支援例を教えてください。
最近の例ですと、兼貞物産株式会社(久留米市)から発売された「すぐもどる椎茸プラス」の開発に携わりました。この乾燥椎茸は、通常の乾燥椎茸に比べ、GABA(※)を多く含んでおり、椎茸では日本初となる機能性表示食品となっています。
(※) GABA: 高めの血圧を低下させる機能を有する成分

